

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

地元企業と連携した市立高校機械科の新設

2 取組期間

- ・実施期間 平成 28 年度から平成 29 年度
平成 30 年 4 月～玉野市立玉野商工高校に機械科開設
同校の 2 年生全員及び市立定時制高校 2～3 年生は市内の企業で
インターンシップを実施

3 取組概要

- ・地元企業の即戦力として活躍できる優秀な人材を育成することを目的に、学校及び地域（地元企業）と連携・協働して、平成 30 年 4 月に玉野市立玉野商業高校へ機械科を新設しました。（校名を玉野市立玉野商工高等学校へ改名）
- ・さらに、機械科実習施設の提供やインターンシップの受入れなどの地域資源を活かした教育活動の充実により、地域を学び舎とした地元で活躍する人材育成に取り組んでいます。

4 背景・目的

- ・本市は、造船業を基幹産業とした「ものづくりのまち玉野」といわれる企業城下町であるにもかかわらず、工業系高校がなく、工業系就職者の不足が深刻化しています。また、市内の若者は地域の産業や企業についての情報が不足し、就職先を求めて市外へ移住するケースも少なくありません。
- ・進学希望者が減少傾向にある市立高校においては、生徒に支持される魅力あるカリキュラムの構築が必要とされていました。
- ・こうした背景から「ものづくり玉野」を支える人材不足と人口減少に歯止めをかける方策と子供や保護者のニーズに応じた高校教育の改編を検討する中で、平成 30 年 4 月に市立高校に機械科を新設しました。また、学校及び地域（地元企業）と連携・協働して、地域資源を活かした教育活動の充実により、地元の産業を学び、そして地元で活躍する人材の育成に取り組むこととしました。

5 取組の具体的内容

1. 地元大手企業（三井造船株式会社）からの強力なバックアップ

三井造船株式会社（平成 30 年 4 月 1 日から、株式会社三井 E&S ホールディングスに社名変更）

大正 6 年 11 月（1917 年）玉野市で創業し、本年 100 周年
市内最大手の基幹産業（玉野事業所：従業員数 2,700 人）

取引先など 55 社による「三井造船玉野協力会」の会員企業あり

※三井造船株式会社から創業 100 年の節目として、何らかの地域貢献を検討しているとの意向があり、玉野市として地域で活躍する人材を育成する事業を展開することとした。



2. 玉野市立高等学校在り方検討プロジェクト会議の開催（平成 28 年 4 月～）

構成：地元大手製造業 4 社、協力企業協会等 4 団体、商工会議所

市立高校 2 校（商業高校、定時制高校）

玉野市 教育委員会、政策財政部、産業振興部

※地元で活躍する人材の育成を産官学の強力な連携により促進を図る。

※商業高校に機会科設立を視野に入れた検討を行う。

しかしながら・・・

<機械科設立に向けた大きな課題>

1. 施設整備費

商業高校内へ機械科実習棟を建設する場合→建物及び機械設備費

約 5 億円の資金が必要

2. 玉野市の財政状況

・平成 28 年度経常収支比率 98.1%

・平成 29 年 2 月から行財政改革を実施

3. 部局を超えた推進室の設置（平成 28 年 7 月～）及び対策

○地方創生人材育成プロジェクト推進室の設置

構成：総括 副市長 + 政策財政部、教育委員会、産業振興部職員で構成

①機械科の実習棟については、玉野商業高校敷地内に整備するのではなく、本校近隣に所在する三井造船（株）の協力のもと、同社構内の技能研修センターをメインに活用し、各種実習授業を実施する。

②資金調達的手法として、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用し、本市にゆかりのある企業へ支援を呼びかける。

③キャリア教育の充実に向けて、地元企業へはインターンシップの受入れの協力を依頼。
→「産官学連携地域人材育成推進協議会」を設置

4. 地元企業及び市内にゆかりのある企業からの支援

①実習施設の整備

- ・三井造船(株)玉野事業所構内の技能研修センターを機械科実習教室として利用。
- ・また、不足するスペースについては、三井造船(株)玉野事業所構内に機械実習施設を同社が新たに建設。
- ・さらに、同校近隣の宮原製作所(株)の協力を受け、同社の施設を材料試験実習場として利用。

②企業版ふるさと納税(平成29年度分)等の受入れ

- ・目標額8,200万円に対し、7社から7,180万円の寄附を受領
- ・このうち5,200万円を実習施設内の機械設備、備品、カリキュラムを作成する教員の人件費、校名変更に係る備品等に充当

③産官学連携による高校生インターンシップ実施

- ・インターンシップ協力企業 平成29年度協力企業数 68社(50社へ実習生を派遣)

5. 玉野市立商業高等学校から玉野市立商工高等学校に校名を変更して新たにスタート(平成30年4月～)
玉野市立玉野商工高校2年生全員及び玉野市立備南高校2～3年生が夏休み期間中に市内に就業場所を有する事業所へインターンシップを実施(平成29年度～)

6 特徴(独自性・新規性・工夫した点)

- ・公立高校の機械科の実習施設については、他の自治体の事例では自校の敷地内に建設していますが、本市においては地域の企業の支援を受け、企業の施設を活用して実習を受けることとしたため、建設費用が不要となったこと、また、実習授業においては教員だけでなく、特別非常勤講師(企業OB)や現役技能者等から実践的で高度な技術指導を受けることができました。
- ・機械科設立に向けて、構想策定段階から地元企業と連携して検討したため、資金面や施設提供、生徒のインターンシップの受入れ等、多大な協力を得ることができました。
- ・企業版ふるさと納税においては、機械科新設事業だけでなく、地域で活躍する人材育成事業(就職セミナーや英語教育の充実等)を加えることにより、製造業系の企業だけでなく、幅広く支援を呼びかける内容としました。
- ・市内においては、副市長をトップとした組織横断的な体制を組んだことにより、意思決定の迅速化を図りました。

7 取組の効果・費用

- ・他の自治体による学科新設の事例では、学校施設等を全て自前で整備した場合には、基本計画・実施設計・施設整備等の期間として、一般的には4年程度かかるものが、本市においては、構想からわずか2年で実現することができました。
- ・地元企業の協力により、施設整備費用はかからず、施設内の機械器具・備品費(H29年度5,200万円)においては企業版ふるさと納税等により、整備することができました。
- ・地元企業と連携して教育を行う体制を構築したことで、学生に対してものづくりや地域の産業の魅力を伝え、市内の企業への就職や定住が促進されます。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・自治体と民間企業とでは、意思決定における過程やスピードが異なるため、民間企業のことを尊重しながら綿密な調整とスピード感を持った対応を心がけました。
- ・校名変更にあたっては同校OB会への説明会を行うなど、各種団体とのきめ細やかな連携・調整が必要であったため、庁内組織の連携を常に意識しました。

9 今後の予定・構想

- ・商工高校への機械科設立がゴールではなく、若者の地元就職・定着を促進するため、商工高校におけるキャリア教育のさらなる充実を図ります。
例えば、商業教育と工業教育が協働で商品開発や地域貢献活動を地元企業との連携のもとに取り組んでいくことで、地域を教育フィールドに、本市に住み続けたいという若者を育成します。

10 他団体へのアドバイス

- ・地方創生の取組は、組織横断的に取り組まなければならないものが多く、いかに迅速かつ綿密に連携することができる体制を構築できるかが重要と感じています。
- ・また、本市は経常収支比率が極めて高いなど、大変厳しい財政状況であったため、限られた財源の中で事業を推進するには、新たな投資を検討する前に、まずは地域にある資源（強み）を活かす方策を検討すべきと思いました。

11 取組について記載したホームページ

- ・玉野市立玉野商工高等学校 HP (<http://www.tamanosho.ed.jp/>)
- ・玉野市 HP「玉野市企業版ふるさと納税について」(<http://www.city.tamano.lg.jp/docs/2017051000024/>)

玉野商工高校機械科の設備設置及び教育課程運用概要

先進的で魅力あふれる機械科専門教育を実現し、未来のスペシャリストを育成

玉野商工高校 一機械科一

【普通科関係科目】

- 基本的には情報ビジネス科と同じ科目履修
- 進学のための科目設定（数学Ⅱ、物理基礎）

【専門科目】

- 全学年：製図
 1・2年：機械工作
 1・2年：機械設計
 2年：情報技術基礎
 3年：原動機
 3年：生産システム技術
 3年選択：電子機械
 3年選択：工業数理基礎（進学対応）

【設置設備・備品】

- 製図室：ドラフター40台
- 造形実習室
 - ・3Dプリンタ
 - ・樹脂用NC加工機（寄贈品）
 - ・3次元プリンタ（寄贈品）
 - ・レーザー加工機（H30設置予定）
- 電気・電子実習室
 - ・電気、制御関係機器
- パソコン実習室
 - ・3次元CAD対応パソコン（H31設置予定）

- ★コンピュータ実習
- ★設計製図（CAD）実習等

ビジネス情報科と共同学習推進

- ★共同商品開発や地域貢献活動
- ★プロジェクト学習（キャリア教育）
- ★プログラミング教育

【その他の教育環境】

- 通常教室にプロジェクター設置
- Wi-Fi環境完備
- Windowsタブレット導入

★専門分野の学習内容に応じて企業見学や企業での体験学習を実施

地域とともにある学校づくりが最大の魅力。地域を教育フィールドとして、高い技術力の習得と職業人としての資質・能力を育成

三井造船 技能研修センター

【専門科目】

- 1年：工業技術基礎
 2・3年：実習
 3年：課題研究

★各種資格試験のための訓練

※特別非常勤講師（企業OB）や現役技能者等からの技術指導による高度な技能習得

【設置設備・備品】

- 新設実習棟
 - ・旋盤10台
 - ・フライス盤1台
 - ・帯鋸盤、ボール盤（各1台）
 - ・その他工作機器・工具
 - ・机、ロッカー等

市内企業を教育の場に

宮原製作所 材料試験実習場

- 材料試験実習
- その他にも専門分野ごとに現役技能者からの技術指導実施

市内協力企業

※企業の方からの講話や企業内見学、大型機器操作体験等による質の高い専門教育を実施

【設置設備・備品】

- 改修実習室
 - ・火花試験機
 - ・硬さ試験機
 - ・金属顕微鏡
 - ・机、ロッカー等
 - ・その他工具、器具

市内全域を教育の場に

- インターンシップ 2年生全員実施
- 企業との連携による商品開発
- 地域貢献ボランティア活動

産学官連携による地方創生人材育成のための高校生インターンシップ実施

産学官連携人材育成推進協議会が中心となって推進

事務局 玉野市商工観光課

対象生徒 市立高校2年生全員（定時制玉野備南高校は2～3年生の希望する生徒）

対象事業所 玉野市に就業場所を有する事業所

実習時期及び期間 7月20日から8月31日の夏休み期間

